

# 未来館 ニュース

49  
vol.

CONTENTS

特集: 未来館ネットワークフォーラム  
講演会「福島~土と生きる人々と出会って」  
「県民参加企画」報告

●「イクメン企業アワード2013」グランプリ  
受賞企業紹介

## 図書情報誌

### 「ライブラリー散歩道」50号発行

ボランティアのみなさんが、毎回テーマを決め図書室のおすすめの本を紹介する図書情報誌「ライブラリー散歩道」が、記念すべき第50号を迎えました。

今回のテーマは、『「共に  
歩いて50号」~本があり、  
仲間があり~』です。  
ホームページに掲載してお  
ります。ぜひ、ご覧ください。



# つながる ひろがる ふくしまの未来

集  
特  
未来館  
ネットワーク  
フォーラム  
2013  
9月8日(日)

シンポリアルイベント

講演

## 「福島～ 土と生きる人々と 出会って」

講師：大石 芳野 さん(写真家)

9月8日に開催した未来館ネットワークフォーラム  
シンポリアルイベントでは、写真家の大石芳野さん  
をお迎えして、講演会を行いました。

大石さんは、平成23年5月より故郷と土を奪われた  
福島の人々の苦悩を撮り、写真集「福島 FUKUSHIMA  
土と生きる」(藤原書店)を発売されています。

※スライド写真を映しながらの講演でした。本誌には写真は掲載していませんが、  
講演の内容を多くの方に知って頂くために、掲載いたしました。

【おおいし よしの・プロフィール】

- 東京都出身。写真家。
- 日本大学芸術学部写真学科を卒業後、ドキュメンタリー写真に携わり今日に至る。
- 戦争や内乱、急速な社会の変容によって傷つけられ苦悩しながらも遅く生きる人びとの姿をカメラとペンで追っている。
- 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故後は、平成23年5月より福島にたびたび訪れて、故郷と土を奪われた人々の苦悩を撮り、「福島 FUKUSHIMA 土と生きる」(藤原書店2013年)を発売した。
- 2001年土門拳賞(『ベトナム 凜と』)、2007年エイボン女性大賞、同年紫綬褒章ほか。
- 写真集「パプア人」「ワニの民 メラネシア芸術の人びと」「沖繩に生きる」「夜と霧は今」「カンボジア苦界転生」「HIROSHIMA 半世紀の肖像」「ベトナム 凜と」「ソコ破壊の果てに」「アフガニスタン 戦禍を生きぬく」「ソコ 絶望の淵から明日へ」「子ども 戦世のなかで」「黒川能の里」「不発弾」と生きる 祈りを織る ラオス」「それでも笑みを」ほか

みなさま、こんにちは。今日は、私が震災後、2011年から撮ってきた「福島、土と生きる」という写真を見ていただきながら、一緒にいろいろ考えていきたいと思っています。

この「土と生きる」という言葉ですが、土というのは何かというと、土は人間の原点です。

農家の方にとっては切っても切り離せない、私にとってのカメラみたいなものです。同時に、私たち人間は「土に還る」と言います。宗教などによって違う場合もありますが、ほとんどが土に還るわけですね。生き物は大体そうです。

これまで、半世紀近く写真家生活をしていますが、東南アジア、オセアニア、いろいろな地域へ行ってつくづく考えたのが、土と共に生きる人たちのことです。とりわけベトナムでは、枯れ葉剤によって大地が汚染されました。人間もかなり強い影響を受けて、今でもダイオキシンの影響を受けた赤ちゃんが生まれています。これは土を汚されたこともダメージの一つです。

一方で、オセアニアのパプアニューギニアに住むパプア人たちがとても大事にしているのも土であり、自然です。一夫多妻のところが多いのですが、1人のお母さんから生まれる子どもは3人ぐらいと云います。なぜかといったら、人間が増えすぎると自然が壊れるからです。そして、病気になったときには土を食べるそうです。抗生物質の中には土でつくられる種類もあると聞きました。だから、土というのは、決して汚いものではないのです。

土と人間の関係について、こうした経験を通して教えられてきましたが、その延長に最も最近のこととして福島があります。震災と原発事故の後、福島に最初に来たのが5月2日でしたが、ああ、土が汚されていると思ったのは、たくさんの田んぼや畑が荒れた状態で放置されている光景を見たときです。5月というと、ちょうど田植えの準備のころでしょうが、見渡す限り草ぼうぼうで耕作もしていないという状態でした。

●この写真は飯館村の男性です。

「土が汚されてしまったんですね」と言ったら、彼は、「そうなんだよ。自分の人生が全部否定されたようなものだ。これからの人生もなしになった、こんなに悔しいことはない、悲しい」と言って、声を上げて泣き出しました。この状況は、他の方にも通していることです。

●高校生です。

山木屋(川俣町)の出身で、山木屋に帰りたいと思いつつながら避難しています。彼女もやっぱり自分の健康、結婚・出産の問題、将来がとても不安になる。でも、いつもそんなことを考えていられないから、和太鼓をやって不安を吹き飛ばそうと思っていると言って、一生懸命に山木屋太鼓をやっていました。

●飯館村には全国から応援で警察官が来ていました。

この警察官、見たところ若いですね。私はこの警察官に、「若い人の場合、将来、放射能の影響があるかもしれないのに、あなたはどのようにしてここにいいの」と言いました。彼は、「後ろのバスで時々休憩したり交代したりするから大丈夫です」と言いながらも、とても戸惑っていました。私はこれを見て、彼らの個々の問題ではなくて、社会が、国が福島県の人たちのことをどう考えているのかということにつながるだろうと思いました。

●浪江町の女性は、一時帰宅で自宅に戻りました。

初めて家の中に入ったとき、中は牛舎のようになっていた。牛がガラス戸を破って中に入ってきて、座布団を出して、そこで横たわったのかどうかわかりませんが、座布団がきれいに並べられているのが非常に不思議です。きれいに片づけてから避難したそうですが、放射線量も高く、もうここに戻ることができないだろうと思うと、生まれ育ったところだけに辛いとおっしゃっていました。

●とうとう自ら命を絶ってしまった人も少なくありません。

この方は勤め人でしたが、農業をやるのが夢でした。両親が農業をやっていたし、退職したら農業をもう一度ちゃんと本当にやりたいという夢を持っていました。ところがだめになって、悲観して自ら命を絶ってしまいました。この納屋で命を終わらせてしまったのです。

●こちらは「原発さえなければ」という文字を堆肥小屋に残して自ら命を落とした方のお姉さんです。

「原発さえなければ」というこの言葉はとても強い。原発さえなければ離婚しなかった、家族がばらばらになることもなかった、原発さえなければ福島から出ることはなかった、原発さえなければ失職することもなかった。そういう人たちが福島中にたくさんいらっしゃる。

原発の話というのは、チェルノブイリを取材したときにも思いましたが、どうしても政治色が強くなり、原発反対などと大きな声で言えなくなったりする歴史があったと思います。たしかに、原発の問題というのは政治が絡んでいますけれども、本当は



人間の問題で、健康の問題で、命の問題なんですよ。だからこそ、もっと真剣に考えていかなければなりません。

●酪農家の方です。

乳牛は毎日搾乳しないと牛が死んでしまう、あるいは菌が体に入ってしまうので、とにかく毎日搾乳する。しかし、搾乳したものを出荷することはできない、ということはお金にならない。でも、牛は生きているから毎日餌を与えなければならないというジレンマの中で、頑張りました。「牛もとても苦労したから、噴霧扇風機を牛舎に取りつけてやったんだ。俺たちもこれがあると涼しい」と言って笑っていました。とても気持ちが優しくて、牛は経済動物といいながら、とても大事にしているのがよくわかります。野菜でも米でも、みな、自分が育てているものに深い愛情を持っているということですね。高校生の息子さんは、父親が頑張っているから、父親の跡を継ぎたいと言っている。父親は、息子が継いでくれるというから、途中で投げ出すわけにはいかない、とにかく頑張ると言っていました。家族4人で撮った写真の、この表情に私は何か今の福島を感じています。まだ不安はある、でも未来に向けて何とか一歩ずつ歩いて行こう、明るい期待を持ち続けようという想いを感じました。

●ちょうど1年目の飯館村の人たちです。

村に残っている人が何人かいました。その中の方に、「どうして避難しないの」と聞いたら、「だって、犬がいるからね。犬を連れていけないから」と言っていました。この犬は実は、避難する人が彼らに預けていった犬だそうです。飼いはじめたらすぐかわいいうから、自分たちはもう避難できなくなってしまったということです。

●まだ米をつくれぬ南相馬の原町です。

この方は、先祖から継いだ田んぼを荒らすことはできないと言って、何も植えることができない田や畑を一生懸命草刈りしたりうなったりしていました。草刈りをするのはなぜかという、自分の田んぼが草ぼうぼうだと心がとてもつらい、心の中にも草が生えたような気持ちになる。草を刈るときれいになるので、すごく気持ちがいいと言っていました。

●山木屋太鼓のリーダーの一人です。

彼は山木屋太鼓をやっていたおかげで、福島から出ないで済んだと言っていました。なぜか。それは、幼い頃から続けているから、太鼓をたたいていると山木屋の田んぼとか風景とか自分の家の周辺のこと、学校へ行く道、友達と遊んで走り回ったふるさとを思い出す、太鼓をたたいていたら自分はふるさとにいたいという気持ちになった、だから福島から出ないと言っていました。

●三春の滝桜です。

カメラを構えると、遠方から近くから、どこからでも撮りたくなるぐらいすばらしい花を咲かせていました。でも、私が一番惹かれたのはこの幹です。この幹のたくましさに福島のたくましさみたいなものを重ねていました。私が福島に来て痛感しているのは、福島の人たちは桜も大事にしているけれども、野に咲いているような花も大事にしている。つまり、福島の人たちはとても自然を大事にしている。自然を大事にしているということは、農業、田畑、土を大事にしているということなんだと、この2年間でとても教えられ、考えさせられました。



大石 芳野 写真集  
「福島 FUKUSHIMA 土と生きる」  
(藤原書店)

東日本大震災後、約1年半にわたって、福島に通い続ける大石さんが、被災し、ふるさとを奪われた人びとに向き合いながら、カメラにおさめた全228点を収録。

●山木屋のご夫婦です。

結婚して住み始めて1週間目に震災が起きました。その後はずっと避難生活です。今も借り上げ住宅にいます。うれしいことに12月に赤ちゃんが生まれました。どこに生まれようと、すべての子どもたちがすくすくと育ってほしいと思います。そして、こんなふうに、母子そろって笑顔が続くことを願います。

東京に住む私は、東京電力のお世話になって日々暮らしてきましたし、今も暮らしているわけです。そこで強く思うのは、供給しているみなさんと私は消費している東京・関東の人間であるということ。私が使っている電力によってみなさん方が放射能の影響を受けてしまったということがとてもつらいです。ところが、東京や関東や遠くの人たちは、もうなかったことにしたいと思っている雰囲気さえある。

写真に写っている人たちは、全体の中のほんの一部の人たちですが、その人たちが結局私でもあるし、極端にいえばみなさんでもあるし、日本中の人たちなんだというふうに重ねて考えていただけたらと思ってこの写真集をつくりました。「土と生きる人々と出会う」というのが今日のテーマですが、出会うって感じたことはそういうことです。この写真に写っている人が、もしかしたら自分だったかもしれないと思わないことには前に進まないのではないのでしょうか。

原発の問題は、人間の問題であり、健康の問題であり、命の問題だということを、強く社会に訴えていく、伝えていくということをお互いにしていきましょう。ありがとうございました。



# 未来館 ネットワーク フォーラム 2013

9月7日(土) 8日(日)



認知症介護セミナー



未来館ネットワークカフェ

9月7日(土)8日(日)の2日間、「未来館フェスティバル」から「未来館ネットワークフォーラム」に名称を変え、「つながるひろがるふくしまの未来」をテーマに、男女共同参画を推進する方や団体のみなさんのネットワーク強化、震災からの復興過程にある福島県の現状を県内外へ広く発信するため、県民参加企画団体、ボランティア、未来館ネットワークフォーラム実行委員の皆さんと一緒に協力し、開催しました。  
当日は雨にも関わらず、たくさんの方に来館いただきました。

屋外



【屋台みらい】



【福島県人権擁護委員協議会二本松市部会】

フラ発表



【二本松フラ愛好会】

ベリーダンスSHOW



【Harumi Bellydance Class】

中南米民族舞踊チャカレラ



【フォルクローレバレエ団/川俣町碧青の会】

ダンスパフォーマンス



【パラダイスBOX NEO】

人KENあゆみちゃん・  
人KENまる君と  
一緒に人権啓発!



### 1階

にほんまつ一店逸品研究会



【二本松商工会議所一店逸品運動推進委員会】

食や環境について考えてみよう



【福島県消費者団体連絡協議会】

知ろう!活かそう!福祉機器



【福祉機器展示室】

今年の“逸品”を紹介・販売しています。

家計管理の腕前チェック 貯金箱製作



【福島県金融広報委員会】

食の安全・安心クイズに挑戦しています。

子どもたちも、楽しくお金のことを学びました。

福祉用具の普及・啓発



【日本福祉用具供給協会東北支部福島県ブロック】

握力、測定中!!

廃油から作った燃料を活用する取組が広がっています!!

### 3階

すてきな飼い主になるために



飼い主を見つけるその眼差しに、深い絆を感じます。

福島県富岡町生活復興支援センター「おだがいさまセンター」おしゃれな手作り作品の展示・販売。

【東北動物愛護ボランティア会(Hal-Net)】

サマンサ♥マミーの会作品展示・販売



【サマンサ♥マミーの会】

ふくしまの女性たちによるかわいいオリジナル商品の展示・販売。

peach heart brand販売



【peach heart】

子ども達に大人気!館内が華やかになりました。

### 2階

復興における男女共同参画



【復興庁男女共同参画班】

BDF(バイオディーゼル)事業



【社会福祉法人あおぞら福祉会 菊の里 / 二本松商工会議所女性会】

幅広い年代の方が熱心にお話されていました。

木の枝クラフト



木のぬくもりに癒やされます。

【NPO法人福島県もりの案内人の会】

孫子老(まごころ)カフェ



助け合いの輪を広げるための情報交換を行いました。

【NPO法人まごころサービス福島センター】



【バルーンアート】

チャリティーバザー



【二本松市婦人団体連合会】

エコクラフト展示



浪江町民によるクラブです。バッグなどの素敵な手作り作品の展示。

【友夢(ゆうゆう)クラブ】

「いづくいかが...」茶道宗徧流お茶会席



【茶道宗徧流福島西支部穂積宗雪社中】

次世代へも受け継がれる、日本のよき伝統!

ひまわり工房手づくり作品展示



【チーム郭内】

浪江町「ひまわり工房」の色鮮やかな手作り作品の展示

新しい読書の世界へ



【図書室】

センター図書室内で男女共同参画に関するテーマで展示を行いました。

### 4階

「東日本大震災被災地における女性の悩み・暴力相談」電話相談から見える福島の現状



【NPO法人ウィメンズスペースふくしま】

ワークショップ「身近なテーマからジェンダーについて考えよう」



【NPO法人市民メディア・イコール】

被災者の心情、苦しみ、悩みについて考えました。

成年後見制度とは



【NPO法人市民後見サポートの会】

自分が男になったら/女になったらしてみたいことを書いて、ジェンダー意識の気づきを学び合いました。

成年後見制度の紹介と個別相談会を実施しました。

福島市ベラルーシミンスク交流視察



【国際女性教育振興会福島県支部】

ジャーナリストスクール新聞展示 子どもたちが見たふくしまの今と未来



【福島県/ふくしまの学び実行委員会】

### 5階

大盤ふるまい



おいしいそうめんを無料でサービス!!

高齢者疑似体験



【福島県社会福祉協議会】

イクメン  
企業アワード  
2013

グランプリ受賞

楽しみながら積極的に育児を行う男性(イクメン)が注目されていますが、このたび、厚生労働省が今年初めて実施した「イクメン企業アワード2013」で、須賀川市で南東北春日リハビリテーション病院を運営する医療法人社団三成会が見事初代グランプリを受賞しました。(※グランプリは全国で2社、もう1社は花王株式会社)

「イクメン企業アワード」は、働きながら安心して子どもを産み育てることができる労働環境を整え、男性の育児参加を積極的に進めている企業を表彰するもので、三成会は仕事と子育てや介護を両立させることができ職員が働きやすい職場環境をつくるといった、他の企業のモデルとなるような取組が評価され、今回の受賞となりました。

三成会事務長の小貫聖二さんにその概要についてお話を伺いました。



三成会事務長  
小貫 聖二さん

医療法人社団 三成会 (須賀川市)

◆「イクメン企業アワード」の初代グランプリを受賞された感想をお聞かせください。

当法人は、これまでワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和)を進めることにより、働きやすい職場環境をつくり、ひいては、全ての職員がその能力を十分発揮できる法人となれるよう様々な取組を行ってまいりました。

特に、男性の育児休業(以下「育休」という)については、取得できない理由を職員から上げてもらい、その問題点を解決するため、様々な取組を行ってまいりました。

その結果として、育休を取りやすい職場風土や男女問わず働きやすい職場環境ができていくと評価され、今回の受賞につながったものと考えており、大変嬉しく思っています。

◆男女問わず職員全員が働きやすい職場環境づくりにはどのように取り組んでこられたのですか。

平成16年に現在の場所に病院を新築移転し、同時に介護老人保健施設を備えた施設になりました。その頃入社した若いスタッフから「結婚しても働き続けられるかが不安」「家族の看護・介護などで有給休暇が必要になった時のことを考えると安易に休暇が取りにくい」などの声がありました。そこで、仕事と家庭の両立ができ、職員全員が働きやすい職場をつくろうと次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画(期間3年)を策定し、取り組むことにしました。

職員の悩みや要望を聞くために、私と事務局長の2人で職員との個人面談をおこなっています。例えば、「有給休暇を取っていますか」「取れない理由はなんですか」などの話を聞き、その成果として積立休暇制度(有給休暇の繰越)などを整備しました。

また、管理職には職員に対し育児休業制度等の利用を働きかけるよう促しています。

医療介護業界は離職率が高く、当法人の離職率は、取組を始める前の平成20年には10%前後でしたが、現在は半分以下になっています。

◆男性の育児休業を取得しやすくするための取組についてお聞かせください。

平成21年に育休取得が期待できる各部署のリーダー的存在である男性職員3名と、育休を終え復帰した女性職員3名でプロジェクトチームを組み、男性の育休取得推進のため、話し合いを持ちました。その中で、男性から経

済的負担が大きく、育休を取得したくてもできないことが挙げられました。その経済的負担を解消しようと「育児休業職支援手当制度」を作りました。この制度は、育休に入った1ヶ月は基本給の全額、2~3ヶ月は基本給の半分を支給するというもので、復職後に「育児奮闘記」という作文(400字以上)の提出を求めています。病院のホームページには男性の作文しか掲載しておりませんが、女性にも同じく提出してもらっています。いままでに男性職員で該当者の6割が育休を取得しており、期間は1ヶ月が最も多く、3ヶ月取得した職員もいます。

しかし、こうした制度もさることながら、男性の育休取得には企業、そして、上司の後押しが不可欠だと思います。当法人の職員はお互い様の精神で同僚を思いやり、働きやすい職場環境づくりに努めているものと自負しています。

◆今後、更に働きやすい職場環境にしていくための新たな取組などは考えていますか。

子供参観日をやりたいと思っています。医療介護の現場はお子さんはもちろん、一般の方もよく分からないと思いますが、いろいろな職種の人が働いています。働いている親の姿を見て、仕事の内容や大変さを知り、男女を問わず、生き生きと働いている姿を目の当たりにして欲しいと思っています。

私どもは働きやすい職場環境をつくるため、ぐるみんマーク(※子育てサポート企業として地方労働局が認定)を平成24年に取得しました。そして平成25年には「イクメン企業アワード2013グランプリ」、均等・両立推進企業として「福島労働局長優良賞」を受賞することができました。働きやすい職場環境を整備するためには経費がかかると思われがちですが、ワーク・ライフ・バランスの推進にはお金はかかりません。トップの考え一つで、実現できることなのです。これからも働きやすい職場づくりを目指し取り組んでまいりたいと考えております。



医療法人社団 三成会

創 立/平成13年  
資 本 金/3200万円  
本社所在地/福島県須賀川市  
事 業 所/福島県須賀川市、神奈川県川崎市  
事業所数/6(須賀川市)  
事業内容/南東北春日リハビリテーション病院、  
介護老人保健施設、他  
従業員数/205名(うち女性150名)(須賀川市)

mi rai kan  
未来館  
ニュース

福島県男女共生センター広報誌

2013.12 vol.49

■編集・発行

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター(女と男の未来館)

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL(0243)23-8301(代) FAX(0243)23-8314

ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>

メールアドレス [mirai@f-miraikan.or.jp](mailto:mirai@f-miraikan.or.jp)

女と男の未来館

検索